

Showa Manufacturing Co.,Ltd.

第92期 中間報告書

平成25年4月1日 ▶ 平成25年9月30日

SHOWA

快 適 環 境 の 創 造 に 挑 戦 す る



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループは平成25年9月30日をもちまして、第92期中間期を終了いたしましたので、ここに事業の概況並びに中間決算の結果につきましてご報告申し上げます。

平成25年12月

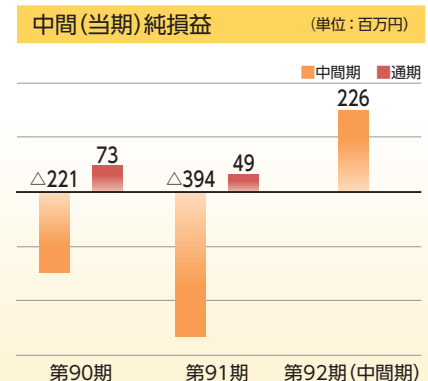
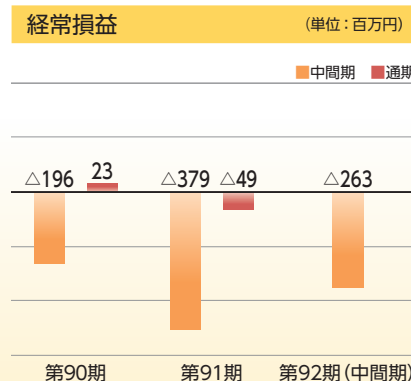
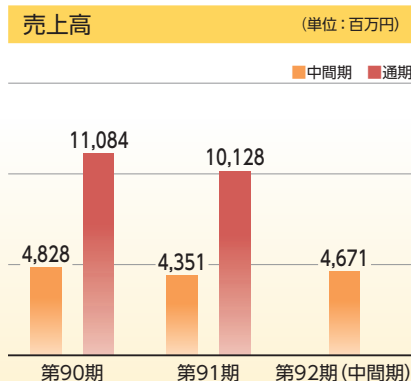
代表取締役社長 山本 駿一

中期経営計画「リカバリー」 今期の業績計画達成に向

当中間期(平成25年4月1日～平成25年9月30日)におけるわが国経済は、安倍政権の経済政策「アベノミクス」効果などで円高の是正や株価の上昇が進み、輸出関連企業を中心に復調の兆しが見られたものの、短期的には円安に伴う原材料価格の高騰や中国などアジア経済の減速等の懸念材料も多く、景気回復が不確かな状況で推移しました。

このような情勢の中で当社グループは、中期経営計画「リカバリー130」の最終年度として、重点課題である「差別化した新製品・サービスの拡販」に努めるとともに、固定経費の徹底した削減と製造工程改善による限界利益の向上に取り組んでまいりました。

機器装置事業につきましては、サーモデバイス機器は受注案件が計画以上に出荷・売上計上できたことにより好調に推移しましたが、熱源機器は電力需給逼迫等の影響により特に「業務用エコキュート」の売上が伸び悩んだことから低調に推移し、当事業の売上高は26億6千3百万円(前年同期比2.0%減)となりました。



「130」を確実なものとするため、 け全力で取り組んでまいります。

素形材加工事業につきましては、鋳造品はやや低調に推移しましたが、景観製品は前年度の受注案件が予定どおり順調に出荷・売上計上できたことにより好調に推移し、当事業の売上高は10億9百万円(前年同期比35.3%増)となりました。

サービスエンジニアリング事業につきましては、設備工事はやや低調に推移しましたが、有料サービス及びリニューアル工事が営業強化により順調に推移し、当事業の売上高は9億9千8百万円(前年同期比12.5%増)となりました。

その結果、当中間期における当社グループの売上高は46億7千1百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

損益面では、業績の進捗はほぼ計画どおり、営業損失は2億6千9百万円(前年同期は営業損失3億4千4百万円)、経常損失は2億6千3百万円(前年同期は経常損失3億7千9百万円)となりました。また、特別利益に固定資産売却益9億3千4百万円、特別損失に事業構造改善費用3億2千

6百万円を計上した結果、中間純利益は2億2千6百万円(前年同期は中間純損失3億9千4百万円)の黒字となりました。

通期の見通しにつきましては、東京五輪の誘致成功などで景気回復に期待感を与えるものの、来春の消費税増税など懸念材料も多く、経営環境は予断を許さない状況が続くものと予想されます。

当社グループは、中期経営計画「リカバリー130」を確実なものとするためにも、基本方針である「ベースの安定化」及び「新規事業の足掛かりの構築」を目指し、今期の業績計画達成に向け全力で取り組む所存でございます。

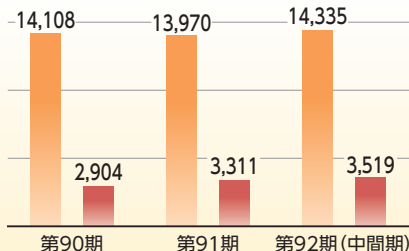
また、中間配当につきましては、当中間期の業績を踏まえ、見送らせていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

総資産・純資産

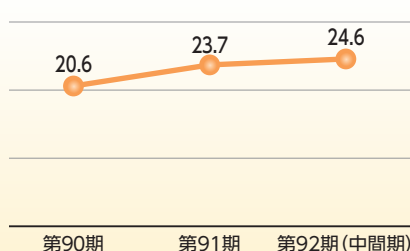
(単位：百万円)

■総資産 ■純資産



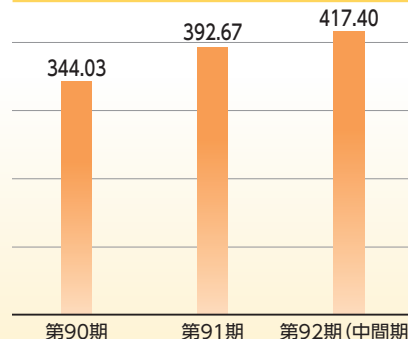
自己資本比率

(単位：%)



1株当たり純資産

(単位：円)



中間連結貸借対照表

科目	当中間期 平成25年9月30日現在	前中間期 平成24年9月30日現在	前期 平成25年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	8,430	7,521	8,012
現金及び預金	3,640	2,811	2,831
受取手形及び売掛金	2,710	2,952	3,562
有価証券	500	—	—
たな卸資産	1,412	1,555	1,379
その他	170	208	239
貸倒引当金	△3	△7	△1
固定資産	5,904	5,496	5,958
有形固定資産	2,471	3,030	2,943
建物及び構築物	559	903	884
機械装置及び運搬具	217	375	344
土地	1,584	1,678	1,611
建設仮勘定	24	24	4
その他	85	48	97
無形固定資産	44	45	49
投資その他の資産	3,389	2,420	2,964
投資有価証券	2,720	1,867	2,394
その他	695	605	598
貸倒引当金	△27	△52	△27
① 資産合計	14,335	13,017	13,970

① 総資産

前期末に比べ3億6千4百万円増加し、143億3千5百万円となりました。主な要因は、現金及び預金8億8百万円、有価証券5億円が増加した一方で、受取手形及び売掛金8億5千1百万円、有形固定資産4億7千2百万円が減少したものです。

② 負債

前期末に比べ1億5千6百万円増加し、108億1千5百万円となりました。主な要因は、未払費用1億2千5百万円、流動負債(その他)1億6千6百万円が増加した一方で、支払手形及び買掛金1億3千万円が減少したものです。

③ 純資産

前期末に比べ2億8百万円増加し、35億1千9百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加2億円によるものです。

科目	当中間期 平成25年9月30日現在	前中間期 平成24年9月30日現在	前期 平成25年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	7,875	7,250	7,459
支払手形及び買掛金	2,126	2,212	2,257
短期借入金	4,620	4,155	4,420
未払費用	543	470	418
未払法人税等	82	23	26
その他	503	389	336
固定負債	2,939	3,451	3,199
長期借入金	700	1,227	910
退職給付引当金	1,629	1,640	1,643
その他	610	583	646
② 負債合計	10,815	10,702	10,659
(純資産の部)			
株主資本	3,378	2,734	3,177
資本金	1,641	1,641	1,641
資本剰余金	1,225	1,225	1,225
利益剰余金	599	△45	398
自己株式	△87	△86	△87
その他の包括利益累計額	141	△419	133
その他有価証券評価差額金	81	△399	121
為替換算調整勘定	59	△20	12
③ 純資産合計	3,519	2,314	3,311
負債及び純資産合計	14,335	13,017	13,970

中間連結損益計算書

科目	当中間期	前中間期	前期
	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
④ 売上高	4,671	4,351	10,128
売上原価	3,672	3,463	7,789
売上総利益	998	887	2,338
販売費及び一般管理費	1,267	1,231	2,367
⑤ 営業損失	△269	△344	△29
営業外収益	52	35	95
営業外費用	46	69	115
⑤ 経常損失	△263	△379	△49
特別利益	934	—	121
特別損失	326	—	37
税金等調整前 中間(当期)純損益	344	△379	33
法人税、住民税及び事業税	74	15	28
法人税等調整額	44	—	△44
少数株主損益調整前 中間(当期)純損益	226	△394	49
⑤ 中間(当期)純損益	226	△394	49

中間連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当中間期	前中間期	前期
	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成24年4月1日 至平成24年9月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
⑥ 営業活動による キャッシュ・フロー	596	320	352
投資活動による キャッシュ・フロー	279	△378	△375
財務活動による キャッシュ・フロー	△51	△192	△208
現金及び現金同等物の 増減額	824	△250	△230
現金及び現金同等物の 期首残高	2,811	3,042	3,042
現金及び現金同等物の 期末残高	3,636	2,791	2,811

④ 売上高

差別化した新製品・サービスの拡販に努めるとともに、固定経費の徹底した削減と製造工程改善による限界利益の向上に取り組んでまいりました。その結果、当中間期における当社グループの売上高は46億7千1百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

⑤ 営業損失・経常損失・中間純損益

業績の進捗はほぼ計画どおり、営業損失は2億6千9百万円(前年同期は営業損失3億4千4百万円)、経常損失は2億6千3百万円(前年同期は経常損失3億7千9百万円)、また特別利益に固定資産売却益9億3千4百万円、特別損失に事業構造改善費用3億2千6百万円を計上した結果、中間純利益は2億2千6百万円(前年同期は中間純損失3億9千4百万円)の黒字となりました。

⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、獲得した資金は5億9千6百万円(前年同期は3億2千万円の獲得)となりました。主な要因は、税金等調整前中間純利益3億4千4百万円及び売上債権の減少額8億5千1百万円による増加と、仕入債務の減少額1億3千万円及びたな卸資産の増加額3千3百万円による減少です。

ダクティル鋳鉄の可能性を活かした次世代防護柵「ダクライト」



● “軽く”そして“スマートに”

Duclight(ダクライト)は、「軽く」そして「スマートに」をコンセプトに橋梁用防護柵の形状を一新しました。

長年培った技術である「応力を安定して吸収する構造」の機能は従来どおり継承させ、理想的な座屈変形にこだわり、スリムでありながらも従来品と同様の強度が得られる構造になっています。

● ダクティル鋳鉄製で鋼製並みの軽さ

「ダクティル鋳鉄製=重い」というイメージを払拭すべく、防護柵の基本性能として必要な部分は残し、それ以外で不要と思われる部分(贅肉)を徹底的に見直しました。

その結果、メートルあたりの重量13%減の軽量化を実現しました。

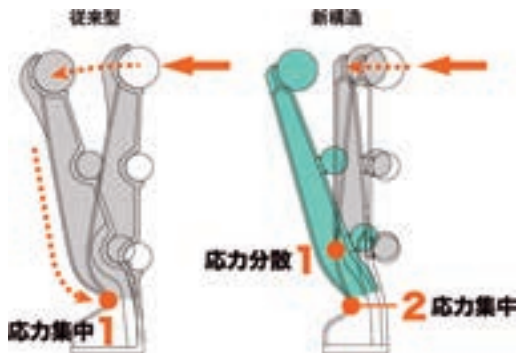
	メートルあたりの重量	ポスト1本あたりの重量
従来型	41kg/m	23.2kg/本
ダクライト	36kg/m ▲5kg減	13.9kg/本 ▲9kg減

※当社従来製品 SK-3BC-85SPNとの比較

● 応力分散+応力集中の2段階構造でスリム化

車両衝突時、衝撃を分散しつつ吸収した応力を集中させる2段階構造でスリム化しました。

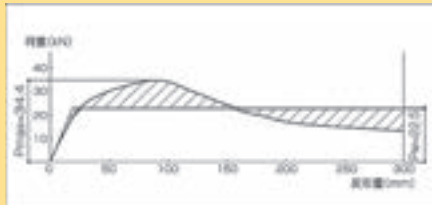
鋳物ならではの「伸びと圧縮」を活かし、バランスの良い形状で必要強度の確保と安定した変形を実現しています。



■ 車両用防護柵としての性能も安心です



静荷重試験



会社概要

商号	昭和鉄工株式会社 Showa Manufacturing Co.,Ltd.
本社所在地	福岡市東区箱崎ふ頭三丁目1番35号
創業	明治16年10月2日
設立	昭和8年4月30日
資本金	16億4,100万円
従業員数	334名(連結393名)
主な事業内容	ファンコイルユニット・エアハンドリングユニット等の空調機器、業務用エコキュート・ボイラー・ヒーター・バーナー・オユシス等の熱源機器、循環温浴器・空気清浄機等の環境機器、液晶パネル製造用熱処理炉等のサーモデバイス機器、橋梁用防護柵等の景観製品、鋳造品等の製造販売のほか、空調機器、熱源機器等の一部販売・メンテナンス・取替工事及び給排水衛生設備等の設計・監理・施工の請負

主な事業所

東京支社	東京都大田区蒲田五丁目44番5号
工場	宇美工場(福岡県粕屋郡)、古賀工場(福岡県古賀市)、札幌工場(石狩市)
営業所	札幌、仙台、北関東(さいたま市)、名古屋、大阪、広島、下関、九州(福岡県粕屋郡)、南九州(熊本市)、鹿児島
関係会社	昭和ネオス株式会社、昭和トータルサービス株式会社、朝日テック株式会社、大連冰山空調設備有限公司

役員

取締役・監査役

代表取締役	山本 駿一
取締役	山田 治彦
取締役	相賀 恒男
取締役	寺倉 彰
取締役	福田 俊仁
取締役	筋野 隆
監査役(常勤)	山根 譲治
監査役	櫻井 文夫
監査役	永利 新一

執行役員

社長CEO	山本 駿一
専務執行役員	山田 治彦
専務執行役員	相賀 恒男
常務執行役員	寺倉 彰
執行役員	福田 俊仁
執行役員	村山 正巳
執行役員	鍋山 敏郎
執行役員	倉岡 淳
執行役員	板並 隆一

株式の状況

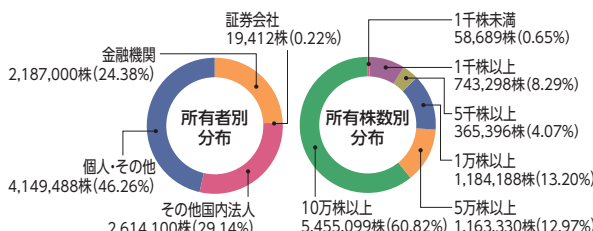
発行可能株式総数	24,000,000株
発行済株式の総数	8,970,000株
株主数	882名

大株主

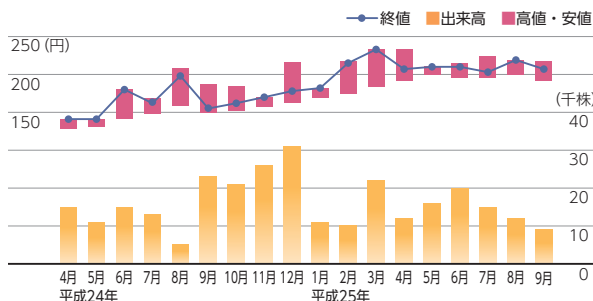
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
三井金属鉱業株式会社	485,000	5.75
株式会社福岡銀行	415,500	4.92
株式会社西日本シティ銀行	400,000	4.74
株式会社北九州銀行	357,500	4.23
住友商事株式会社	345,000	4.09
飯田卓子	297,114	3.52
西日本鉄道株式会社	291,000	3.45
飯田久泰	267,000	3.16
稲田好美	198,135	2.34
日本乾溜工業株式会社	187,000	2.21

(注)持株比率は、自己株式(537,350株)を控除して計算しております。

株式分布状況



株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
株主総会の招集地	福岡市
基準日	定時株主総会の基準日 毎年3月31日 剰余金の配当の基準日 毎年3月31日 中間配当の基準日 毎年9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国 各支店で行っております。
公告方法	電子公告によります。 http://www.showa.co.jp/koukoku/index.html ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告 による公告をすることができない場合は、日本経済新聞 に掲載して行います。
単元株式数	1,000株

● 株主様へのご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増 等のお申し出先について

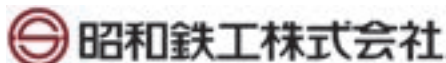
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



ホームページもご覧ください。
<http://www.showa.co.jp/>



〒812-8587 福岡市東区箱崎ふ頭三丁目1番35号
TEL 092-651-2931 (代表)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷するとともに、針金を使わない
Eco印刷製本を採用しています。